

生殖とネット  
がん医療が

# 精子の凍結保存紹介

## 男性患者向けパンフ作製

がん治療に携わる県内の医師や看護師らでつくる「がんと生殖医療ネットワークOKAYAMA」は、将来子どもが欲しいと考えている男性ががん患者や家族に向け、精子の凍結保存について紹介したパンフレットを作った。

がん治療では、化学

療法や放射線療法により精巣がダメージを受け、精子を作る機能が低下することがある。凍結保存は「生殖機能温存治療」の一つで、治療開始前に患者の精子を採取、保存しておくき、子どもを持つと使用する際に解凍して使用し妊娠を目指す。

パンフレットでは、

精子の凍結保存について紹介するパンフレット



生殖機能温存治療は「100%の妊娠・出産を約束するものではない」などとし、実際に取り組む場合はがん治療を担当する主治医の了承があると説明。保険適用外

で、精子の凍結保存には最初に数万円、その後、保管料として年1万〜2万円の自己負担が必要になることを解説した。

実施医療機関が分かるサイトや相談先なども記載している。

監修した岡山大学の中塚幹也教授（生殖医療）は「精子の凍結保存を中心に生殖機能温存治療について正しく理解するきっかけにしてほしい」としている。

A4判三つ折り。県の助成などを受けて5千部を印刷し、がん治療や不妊治療を行う県内の医療機関に配った。がんと生殖医療ネットワークワークOKAYAMAのホームページからもダウンロードできる。（河内慎太郎）